

経済面を読むにあたって、日本経済や景気の動向についての一般的な国内経済ニュースのほか、経済を世界的視野で捉えるため、国際経済についての記事も注意すべきでしょう。また、業界の動向、上場会社のトップの人事、企業の決算・売上高、新製品の紹介など細かいニュースも経済面には掲載されています。

しかし、数字や専門用語が並ぶ経済記事はとっつきにくく、教師の苦手な分野の1つといえると思います。ただ、最近では読者に分かりやすくする工夫も多く見られるようになりました。経済面ではありませんが、2月21日付夕刊1面の「ギリシャ支援に合意」という経済記事を見てみましょう。

ここでは、「政府債務」を「借金」という一般的な言葉で置き換えています。このような小さな工夫一つで、読者に記事の内容全体が伝わりやすくなります。「債務不履行（デフォルト）」についても、その前に「突然借金が返せなくなる」という言葉をつけて、さりげなく説明しています。一方、その日の読売新聞の記事を読むと、「突然の債務不履行（デフォルト）を回避できることが確実となり」とだけあり、毎日新聞には「債務不履行（デフォルト）回避が決まった」としかありません。

新聞の文字が大きくなると、字数がかえって制限されますから、どうしても説明を省きたくなります。そのなかで、難しい内容を一般の読者にいかにわかりやすく説明しているかが、経済面編集のポイントとなるでしょう。そのほか、経済面にはグラフと図表を使った記事が多くあります。これもビジュアル化により本文を分かりやすくする工夫の現れです。